

第17回文化ビジネス塾(令和6年度ビジネス・カフェ in 文化産業交流会館との共催)を開催しました。

建築とまちづくり 既存公共建築物の再生とそのポテンシャル

～経済性、そして環境負荷を考慮したフロー型からストック型の時代～

令和6年(2024年)11月4日(月・休)15:00~17:15 / 滋賀県立文化産業交流会館 小劇場

人口減少時代では公共文化施設の維持管理コストが自治体の大きな負担となっています。しかし、公共建築は社会との関わりの中で存在し、廃止や建て替えが適当な方法かどうかは議論のあるところ。これからの時代に公共建築の維持や更新はどうするべきか、米ブリツカー賞など多数受賞された世界的建築家であり、紙管シェルターで被災地支援を続ける坂茂さんを迎えてお話を伺いました。

当日は、県内外から建築家をを目指す学生をはじめ公共建築に関心をもつ来場者で満席となり、活発な質疑応答が行われました。

基調講演 「作品づくりと社会貢献の両立を目指して」 建築家 坂茂氏



どうして災害支援の活動を始めたかという、われわれ建築家というのはあまり社会の役に立ってないのではないかと気がついたんです。建築家のクライアントは、いわゆる特権階級の人たちです。建築は、歴史的にも目に見えない財力や政治力を社会に示すことに伝わってきました。もっと自分の経験や知識を、一般大衆の方々、あるいは家を災害で失った方々のためにも使えないかと考えました。なぜ地震で人が怪我して亡くなったりするかというと、建築が崩れて人が死ぬわけです。災害があると、まちが復興する前に避難所ですとか、仮設住宅という非常に悲惨な住空間に人々は置かれる。それを改善するのも建築家の役割じゃないかと思って、活動を始めました。

とにかく物を捨てるのはもったいないと考えた

アメリカの大学を出てすぐに仕事を始めましたが、実務経験もなく当然、建築なんか造れるわけじゃないので、最初にやったことは展示会の会場構成と企画でした。僕が大好きなフィンランドの建築家アルヴァ・アアルトの展示会です。アアルト的な会場を造りたいと思ったのですが、木を使うのは短期的な仮設の展示会ではもったいないと考えたのです。思いついたのが紙管、再生紙の紙でできた筒です。紙管を使って、アアルトのヴィープリの図書館のような波打つ天井を造ったり、太めの紙管で間仕切りを造ったりしました。思った以上に強かったんで、大学の研究室で実験をして、何とかこれを建築の構造に使おうとしました。1985 - 86年、バブルの時期で、今みたいに環境問題、リサイクルやエコロジーとか、世の中で語られる前の時代に、こういう開発を始めました。2000年ごろになると世界で環境問題が語られるようになって、ドイツ・ハノーヴァー市で行われた万国博覧会では、唯一リサイクルができる構造を開発していた僕は、日本館の設計を依頼されました。この時、僕が憧れていたドイツの天才的な建築家であるフライ・オットーさんと共同し、紙管によるグリッドシェルストラクチャーを造りました。紙管は地元の会社で造ってもらって、その会社との契約に、博覧会が終わったら解体された材料を全部その会社が引き取ってリサイクルすることをもちこみました。紙というのは何度でもリサイクルできます。基礎はリサイクルできないコンクリートを使わずに、木の箱を造って中に砂を詰めて代わりにしました。

建築の仮設とパーマネントの違い

1995年、阪神淡路大震災が起こって、8,000人くらいの方が亡くなりました。大火災も起こりました。新聞で、たくさんのベトナムの人たちが教会に集まっているというニュースを見ました。たぶん日本人よりも、もっと大変な被災者生活をしているのではないかと、訪ねていったんです。本当に焼け野原で、中からやっと教会を探し当てたら、建物全部、火事と地震で倒壊していました。皆さん、たき火を囲んで日曜日のミサをされていたのですが、神父さんに「紙で仮設の教会を造りましょう」と言ったら、全く相手にしてもらえませんでした。でも、あきらめが悪いものですから、それから毎週、始発で神戸へ通いました。

やっと神父さんの信頼を得まして、ボランティアの手で造るんだっつらということで、10m×15mの長方形の土地をもらって、全て学生の手で紙管を持ってきて、仮設の教会を造りました。神父さんも数年間使えばいいと思っていたのですが、結局10年間、ここでコンサートや結婚式があったり、いろいろなイベントがあって、コミュニティセンターになり、復興のシンボルとして大事に使われました。

10年後、台湾で大地震が起こり、解体して台湾に寄付することにしました。今、台湾の桃米という村でパーマネントな、公共的な教会兼コミュニティセンターとして皆さんに愛されて使われています。そんなとき、何が仮設建築の定義なんだろう、何がパーマネントの建築の定義なんだろうと考えました。大きな都会へ行くと、あっという間に元あった建物がなくなっていることがよくあります。ディベロッパーが土地を買って、コンクリートの建物を壊し、また新しい建物を造り、その繰り返しをずっとやっているわけです。例えば東京でも、赤坂見附に丹下健三さんが設計したプリンスホテルは、30年もたなかったです。金もうけのために造った商業建築は、コンクリートで造っても全部仮設です。たかが紙で、学生の手で造っても、皆さんが愛してくれさえすれば、これはパーマネントになりうるんです。それが、僕が考える仮設とパーマネントの違いです。



© 平井広行

が引き取ってリサイクルすることをもちこみました。紙というのは何度でもリサイクルできます。基礎はリサイクルできないコンクリートを使わずに、木の箱を造って中に砂を詰めて代わりにしました。

ハノーヴァー国際博覧会 2000



© 平井広行



© 平井広行

2011年、東日本大震災が起きました。神戸の地震のとき、初めて避難所でプライバシーもなく、皆さんが苦しんでいる様子を見ました。そのときは何もできなかったのですが、また地震が起ったら、こういう避難所ができるのではないかと、大学の研究室で間仕切りの開発を始めました。2004年の新潟県の中越地震で初めてつくったのですが、行政から「そんなもの要らない」「ない方が管理しやすい」と一切やらせてもらえませんでした。それから開発を重ねて、使う方や行政の方にも聞いて少しずつ改善して、東日本大震災のときは4バージョン目の完成形でした。まずは原発避難者の方がいた宇都宮から回り、それから新潟、山形と上へ上がっていったのですが、役所の人たちに全部断られました。ところが、岩手県大槌町は、残念ながら津波で庁舎が流されて、町長さんも役所の職員の方もほとんど亡くなられてしまったので、高校の体育館の避難所は物理の先生が仕切っていました。物理の先生は「これ、いいね。すぐやろう」と、1週間で500世帯分造りました。東北は3か月で80の避難所を回って30断られて、50の避難所で2,000ユニットを作りました。2020年の熊本の洪水のとき、お医者さんが「これはコロナの飛沫感染防止に非常にいい」と役所の人に言ってくれ、15年目にしてやっと内閣府が避難所の標準の間仕切りとして認めてくれました。今は50以上の県や市と協定を結ぶことによって備蓄していただいたり、われわれのところへ連絡が来て、役所のお墨付きで避難所がすぐできることをやっております。明日、彦根市とも防災協定を結ばせていただきます。



もほとんど亡くなられてしまったので、高校の体育館の避難所は物理の先生が仕切っていました。物理の先生は「これ、いいね。すぐやろう」と、1週間で500世帯分造りました。東北は3か月で80の避難所を回って30断られて、50の避難所で2,000ユニットを作りました。2020年の熊本の洪水のとき、お医者さんが「これはコロナの飛沫感染防止に非常にいい」と役所の人に言ってくれ、15年目にしてやっと内閣府が避難所の標準の間仕切りとして認めてくれました。今は50以上の県や市と協定を結ぶことによって備蓄していただいたり、われわれのところへ連絡が来て、役所のお墨付きで避難所がすぐできることをやっております。明日、彦根市とも防災協定を結ばせていただきます。

NPO 法人ボランタリー・アーキテクト・ネットワークという団体をつくっています。2022年2月、ロシアがウクライナに侵襲して、直後に300万人以上の難民がポーランドに押し寄せ、そこから周辺国に行きました。ポーランドをはじめとして、ウクライナ、スロバキア、ベルリン、パリで、避難所にたくさんの間仕切りをつくって回りました。

今、ポーランドの大学と共同で、ローコストの復興住宅の準備を始めています。復興時というのは、震災でも戦争でもゼネコンが大忙しになりますし、建築材料は値上がりします。ですから、ゼネコンに頼らず、建築材料を使わなくても造れるローコストの家を造ろうということで、開発しています。これからも、世界中で皆さんに愛される建築を造ればと考えています。ありがとうございました。

<質疑応答>

会場① 最近、日本でも木造化がかなり進んだと思いますが、どのくらいヨーロッパ圏と比べて日本の木造建築が遅れていますか。

坂 技術的な問題、法規的な問題、それからヨーロッパほど木造に強いエンジニアがいない。技術、法規、教育で日本は相当遅れていると思います。

会場② 外観と建物の機能が合致せず失敗した建築はありますか。日本の建築は素晴らしいのに、何が一番遅れたのでしょうか。

坂 「失敗しないので」と言っています。ただ、建築は中と外、裏表があってはいけない。僕は、中が外であり外が中であると思っています。日本では、木造の大きな建築が造れなくなっています。一番には法規です。戦後、まちが爆撃で燃えて、2階以上の建築は燃えない建築という法規を定めてしまったものですから、法規の縛りで日本の木造は遅れてしまったというのが現状です。古い建築は素晴らしいです。

***** 進行 玉田 浩之氏 (滋賀県立大学)

対談 「ひこね燦ぱれす 再生へのチャレンジ」 建築家 坂茂氏 × 彦根市長 和田 裕行氏

1991年に開館し「ひこね燦ぱれす」として親しまれてきた勤労者総合福祉センター。坂茂氏の設計により、新彦根市立図書館に生まれ変わります。

和田 「燦ぱれす」は、解体して駐車場になることが決まっていた。市長に就任した時にこれを見直して、需要のあった図書館として再生を提案しました。リノベーションだと国の補助金が使えますが、新築では彦根の財政では用地買収も含めて同規模の図書館を建設できないし、建てられても維持できません。世界遺産登録を目指している彦根城も、実は大津城、長浜城などのリユースです。明治時代には廃城の危機にも瀕しました。しかし、市民が守ってパーマネントなお城になったのかなと思っています。

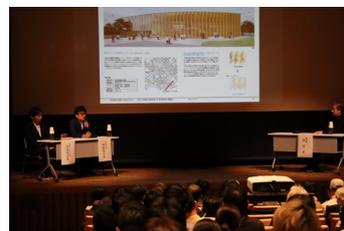
坂 リノベーションは、古い建物を使っていかなければいけない。設計は一からつくるより難しい。もちろん予算も低いし、制限も多い。けれども、リノベーションの仕事は世界中でどんどん増えています。建築を壊すと大量のごみをつくり、環境に悪い。そういう意味で、ただ単に古いものを生かしていこうというだけではなくて、環境の面でも古い建物を利用していくというのはもう世界の潮流になっています。

図書館のファサードは、国宝の彦根屏風からアイデアを得ました。庶民の絵が描かれている特色ある屏風です。ガラスの反射で前を人が歩くと人が映り、屏風に庶民が映っているような感じです。また、建物の構造と外からの採光と本を保護する光のコントロールの役目をしていきます。

和田 人口減少社会を目の当たりにして、行政が中長期で立てた計画は、今、本当に見直さなければいけない時期にきています。人口が1割減ったら、市民負担が1割増えると思ってください。これから公共の建物は、統廃合も含めて検討していかなければいけない、非常に厳しい時代に突入しています。このたびは運も味方して、坂先生によりほぼ不可能であった新しい図書館が、一歩実現しようとしています。

玉田 公共建築の再編がこれから進んでいく中で、一つの良いモデルになると思います。ありがとうございました。

坂茂氏と会場参加者とのクロストーク 公共建築のありかた



坂 確かに日本は地震があって、他の国とは条件が違うことは分かりますが、今から30年、40年前ですと1981年以降です。1981年に大きな建築の構造の新耐震という、強度をアップさせる法規が通って、阪神でも東北の大震災でも、1981年以降に建てた建物はほとんど壊れていないです。何でヨーロッパの建物は何百年も使われているかということ、やはりいい建築だからです。いい建築だから中を少しずつ変えても使っていく。日本で30年、40年で公共建築を建て直さなければいけないということ自体がおかしいんじゃないかと思っています。

市民側にも問題があると思います。日本人は公共建築は税金の無駄遣いだとかいう意識があって、自分のまちの公共建築を誇りに思っていない。美術館は美術愛好家、音楽ホールは音楽愛好家のためにあって、一般市民は公共建築に行っていない。

会場 公共建築の空間を説明するときに気を付けていらっしゃることは。

坂 合理性です。建築は問題解決のデザインだと思っています。こういう問題があり、意匠的に、デザインの、工法的に解決したからこうなりましたという説明をする。それは誰でも理解していただけることなんです。

玉田 発注する行政側が事前によくリサーチし、条件整理をした上でプロポーザルを実施すると非常にスムーズに行くと考えますが。

坂 やはりいい建築を造りたいという意識をはっきり持って、コンペとかの要綱を作っていく、審査員を選んでいくということが、行政の仕事では非常に重要だと思っています。

(注) 敬称を省略して掲載させていただきます

文化経済サロン① 7月31日(水) 14:00~16:00 /びわ湖ホール研修室

公共建築のリノベーションの可能性ー建築文化の継承に向けてー

たまだ ひろゆき
講師 | 玉田 浩之氏
滋賀県立大学准教授



公共施設がたくさん余っている状態にあります。1970年代に多くつくられて、建築竣工後、40年が経過して、残すのか、あるいは建て替えるのか、除却するのかという判断を迫られる時期に来ているのかなと思います。その対応に苦慮されている自治体が多い中で、公共建築をリノベーションして再生・転用し、まちづくりに生かす事例も増えています。

公共建築とは何か

辞書では、「国や地方公共団体が設置し、一般市民が利用する建物」とあります。公民館とか学校、病院、図書館、博物館などです。公共建築を残すのか、除却するのかの判断のときにまず問われるのは、公共サービスが減ってしまうのではないかとということです。まず公共のサービスがあり、それに必要な建物がある。公共建築は、公共サービスを支える器なのです。サービスの中身を考えて施設のあり方を検討すべきです。

公共建築の残し方に知恵を絞らなければならない時代に

考えなければならないのは、公共サービスの質がちゃんと保たれるかどうか。サービスの継続によって、その場所の魅力を高めていくことができるかということです。滋賀県の公共施設等マネジメント基本方針でも、「地域の活性化やまちづくりの視点」「県民や市町等多様な主体との対話・共感・協働」が示されているところは注目したいところです。

「つくる時代」から「つなぐ時代へ」

人口減少、少子高齢化、厳しい財政、市町村合併による施設の重複という社会環境があり、公共施設の現状としても経年劣化、需要のミスマッチ、維持管理の費用の増加で、なんとかして減らしたいという状況があります。いわば70年代、80年代の「つくる時代」から、今はつくられたものを次世代につないでいくという作業が必要なわけです。その「つなぐ時代」の仕事として、リノベーションがあります。リノベーションを選択するのは、建物があるから使いましょうというのが、一番のきっかけになります。環境保全のために廃棄しない、歴史・文化的価値があるから、地域活性化のために活用するという例も見られます。

<西武大津はどういう選択肢があり得たかという質問に対して>

その建物を市民が愛しているのに、うまく活用していこうと考える余地も与えないうちに取り壊しが始まるというようなことが結構多いです。一つには、建築文化を大切にしようという国民的理解が醸成されていないことがあるのかと思います。今、京都のモダン建築祭とか、大阪の生きた建築ミュージアムフェスティバルなど、市民が建築に親しむ催しが行われるようになってきました。価値が浸透していくことで、愛着が生まれ、突然に建物がなくなるというようなことがなくなっていくのではないかなと思います。

文化経済サロン② 10月10日(木) 14:00~16:00 /びわ湖ホール研修室

文化ホール建築の再生活用を考える

会場 コンパクトシティ化によって地方(郊外)の施設が廃止される。文化施設の価値、残す価値をどう捉えていったら良いか。

藤田 街の中心部に文化ホールの機能が集められることによって、市民にとって文化が関わりづらくなっていくのではないかと考えています。もっといろいろなところにあれば、誰でも簡単にアクセスできる。コンパクトシティ化していった先の文化施設に、そういったものはないのではないかと。

山中 建物は道具のようなもの。例えば音楽ホールを残すかどうかというとき、残すべきものは音楽を通して自己表現したり体験を提供する場で、必ずしも建物そのものではないと考えています。どう使い込んで、どのように市民やまちなじんできたのか。そこを読み解けば自ずと残すべき場の在り方とその価値が見えてくると考えています。

玉田 そもそも建てたときの意図が忘れ去られている。文化施設で芸術活動が活発に行われていれば、それに対する反対の根拠になり得ますし、壊すことをすぐに決めることにはなっていないかと思っています。もう一つは、建物を維持するためのメンテナンス計画です。これは、使っている側が考えているだけでは駄目で、文化政策の中でそれをどう位置付けていかで、決まってくるのかなと思います。

たまだ ひろゆき
講師 | 玉田 浩之氏
滋賀県立大学准教授

ふじた はると
発表者 | 藤田 晴斗氏
やまなか ゆうた
山中 侑汰氏
滋賀県立大学修士1年



会場 文化ホール、文化施設の終わらせ方は、どうでしょうか。建てる時にあまり議論がなかった。最初のプロセス、最後のプロセスとして住民との対話がとても大事なのかなと思いました。

玉田 おっしゃるとおりですね。終わらせ方を造るときには考えにくいものですが、当時は箱物を造ることが町を発展させるのだと考えられていて、そのあとどうするか考えなかったのも、(文化施設の終わらせ方が課題となっている)一つの理由だろうと思います。

藤田 建築の歴史を学んできて、どんどん技術が進歩すると一緒に建物も大きくなり、大きくなるにつれて市民から切り離されていくというのは、近代建築の特徴です。そこをどう乗り越えていくかというのが、われわれが扱っている問題の一つかなと思います。

令和6年度 滋賀アートプラットフォーム事業 びわ湖・アーティストズ・みんぐる 2024 ((公財)びわ湖芸術文化財団地域創造部との共催)

絵画と音楽で綴るおうみの民話 vol.1 ~伊吹山と神の息吹~

10月27日(日)@伊吹薬草の里文化センター(米原市)

“近江には一木一草一石にも伝説がある”といわれるほど多くの民話がある滋賀県。初回は、伊吹山や伊吹地方に伝わる特徴的な民話を、滋賀の若手作曲家と日本画家、演奏者のコラボで再評価しました。地元の方にも語りで参加いただきました。



C³ vol.2 ~現代音楽と未来への《関》~

11月9日(土)@ステイマー・ザール(守山市)

現代音楽 × 弦楽四重奏の切り口で滋賀の魅力発信する演奏会。今回は、独特の世界観で高い評価を受ける小出稚子さんが三上山を登山して作曲した弦楽四重奏曲「栖」を初演。三上山を栖とする生命や人の心を包むやさしい山が描かれました。



第15回文化・経済フォーラム滋賀 総会・講演会



講演会
幸せへの近道
～チベット人の私が
日本で暮らして思うこと～

講師

歌手
バイマヤンジンさん

異文化理解、家族のあり方、子育て、教育、道徳、幸せ、人権など、ヤンジンさんが経験したさまざまな道をお聴きします。

演奏会

びわ湖ホール声楽アンサンブル

ソプラノ 山田知加
メゾソプラノ 山際きみ佳
テノール 薦谷明夫
バス・バリトン 内山建人
ピアノ 小林千夏

令和7年(2025年)

2月24日(月・休) 14時開演(13時30分開場)

会場 びわ湖ホール

入場無料

全席自由

事前の申し込みが必要です。お申込み方法はウェブサイト、チラシをご覧ください。

日程

14:00～16:30 会場：びわ湖ホール小ホール(地下1階)

びわ湖ホール声楽アンサンブル演奏会
「2024文化で滋賀を元気に!賞」表彰式
バイマヤンジンさん講演会
文化で滋賀を元気にする提言発表

16:50～17:20 会場：びわ湖ホール研修室(3階)
第15回文化・経済フォーラム滋賀 総会

17:30～19:00 会場：びわ湖ホールラウンジ(2階)
交流会(交流会費：お一人様につき6,000円)

第15回総会を行います

日時：令和7年(2025年)2月24日(月・休)

16:50～17:20

会場：びわ湖ホール研修室(3階)

議事

- ・令和6年度事業報告及び収支決算
・令和7年度事業計画及び収支予算
・役員改選

役員(幹事)=====

相談役 | 木村至宏、石丸正運、中村順一

代表幹事 | 山中隆

副代表幹事 | 田中健之、南千勢子

幹事 | 秋村洋、井伊亮子、井上建夫、加藤賢治、川添智史、小磯亮、高梨純次、東郷寛彦、西川雄雄、馬場章、保坂健二郎、村田和彦、山本勝義、竹村憲男

監事 | 波田晋一、村岡孝浩

文化・経済フォーラム滋賀 第1回～第14回総会・講演会

<年> <総会>

Table with 4 columns: Year, Total Meeting, Lecture, and Number of Participants. Lists data from H23(2011) to R 6(2024).

*敬称略、役職当時

<提言タイトル>

- H24(2012) 文化ビジネスの開発で滋賀の文化と経済に新展開を
H25(2013) 文化・芸術・ビジネスの見本市としての国民文化祭へ
H26(2014) 滋賀の文化を発信する国民文化祭を早期に、スポーツイベントと連携した開催へ
H27(2015) 自然・歴史・暮らしが統合された地「近江」の発信を
H28(2016) 新生美術館計画の実現と滋賀の魅力の発見・発信へ
H29(2017) 世界遺産、無形文化遺産、世界農業遺産の登録等への取組みを
H30(2018) 地域文化を育む、新たな観光を創造する
R 1(2019) アーティストと地域をつなぎ、新たな文化を育む
R 2(2020) 文化で滋賀を元気に!多様な人材を育む地域活動の推進
R 3(2021) アートを地域のプラットフォームに
R 4(2022) 創造の現場に若い世代の活躍の場をつくり、地域の原動力に
R 5(2023) 博物館は地域社会に貢献できるのか
R 6(2024) 地域拠点「劇場・文化ホール」

令和7年度会員継続のお願い

文化・経済フォーラム滋賀は、「文化で滋賀を元気に!」を合言葉に発足以来、会員の皆さまのアイデアとネットワークを活かして滋賀の未来を考える事業に取り組んでいます。活動は、皆さまの会費で運営されています。1月は会員継続手続きの月です。ご案内を郵送させていただきますので、令和7年度におかれましても、ぜひとも引き続き会員をご継続いただき、「文化で滋賀を元気に!」する活動にご参画いただきますようお願い申し上げます。

年会費

個人・団体会員 一口 5,000円
法人会員 一口 20,000円